

に早く復旧復興に取り組むことができていると大変感謝しています。

**市長** 齋藤町長の下、山元町の職員と全国各地からの派遣職員がチーム山元となって頑張っておられるわけですね。津市も当初は土木と建築の専門職員を派遣していました。現在も全国から建築の専門職員の派遣は行われているのですか。

**齋藤** 山元町には建築の専門職員が1人もおりませんでしたので、津市からの職員派遣は非常に助かりました。まだまだ復興事業は山積しており、土木、建築職はもちろんのこと、復興事業に振り分けた結果、従来事務を担当する職員まで不足するなど、職員の不足は非常に厳しい状況にあります。



山元町役場仮庁舎

**市長** 復興はまだまだ道半ばということですね。山元町では、東日本大震災で町域の3分の1が浸水し、誠に残念ながら635人の町民の皆さんが尊い命を落とされました。

**齋藤** 主な原因はやはり津波でした。今回の経験を通じて、「津波が来たらすぐに逃げる」という津波文化を定着させることが、沿岸部を抱えた自治体の大きな課題だと思いました。また、海岸線に近いところにある保育所や支所、学校については、現場の



津波で被害を受けた中浜小学校

責任者が初動の判断をしっかりとできる権限の分担を行っておくことが大事だと思います。

**市長** 常に現場でベストが尽くせるよう、あらかじめ責任者に権限を与え、事前に訓練を行っておくことが非常に重要だということですね。自衛隊派遣など、災害の応急対策は被災直後から始まるわけですが、齋藤町長は宮城県庁勤務時代から自衛隊と顔の見える関係をつくられており、そのような意味では初動のところどうまく自衛隊との連携が取れたのではないかと拝察しております。

**齋藤** 今回の大震災ではこれまでの経験を生かし、自衛隊との良好な関係の中、応急対策、応急復旧を進めることができたと思っています。

**市長** 発災当日、被災した役場の前にテントを建てて臨時役場を開設、その隣に自衛隊のテントが建ち、2つのテント間で情報交



さいとう としお  
宮城県亶理郡山元町長 **齋藤 俊夫さん**

宮城県亶理郡山元町中浜生まれ。坂元小・中学校、仙台市立仙台高等学校を経て、東北学院大学経済学部卒業後、宮城県庁に入庁。スポーツ振興課長、大河原福祉事務所長、総務部危機管理監、産業経済部次長、仙台地方振興事務所長を歴任し、平成22年3月に定年退職。平成22年4月から山元町長（現在2期目）。